

第6学年松組 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名 本は友達「私と本」「森へ」

2 単元の目標

【知識及び技能】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。
【思考力、判断力、表現力等】文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

3 子どもと単元

単元について

＜今後の読書生活の幅を広げていこうとする気持ちを高める＞

「私と本」では、「自分と本との関わりを考えよう」に挙げられた7つの項目で自分の読書生活を捉え、友達と互いの読書生活を伝え合うことで、本の読み方は様々であることに気付くとともに、今後の読書生活についても考えることができる。また、心に残っている本のテーマを考えることは、その本を読んで考えたことを改めて捉え直し、考えの広がりや気付きにもつながる。さらに、本のテーマや魅力を交流することにより、多様な見方や考え方に触れることができるため、今後の読書生活の幅を広げていこうとする気持ちが高まることが期待される。

＜魅力やテーマを考えるのに適した読書材＞

本単元は、「私と本」と「森へ」の二つで構成されている。読書材である「森へ」は、写真家である星野道夫氏がアラスカの森の中に身を置いて、感じたり考えたりしたことを写真と文章で構成した紀行文である。この作品の特色は、アラスカの自然の中で生きる命を読み手に想像させる様々な擬人化表現や比喩表現、そして、写真が伝える迫力と美しさである。子どもたちは、聞こえてくる音や見えてくる景色を想像したり、写真にじっくりと見入ったりすることを通して、遠く離れたアラスカの自然の姿を楽しむだけでなく、作品の魅力やテーマについての自分の考えを深めるのに適している作品であると考えられる。

学びを支えるために

＜活動への意欲を高める言語活動の設定と地域施設との連携＞

夏休みの読書を充実させることを目指し、ブックトーク「この夏、この本読んでみませんか？」と題して、本の魅力やテーマなどの自分が考えたことを伝え合う言語活動を設定する。単元の導入時に、市立図書館の職員によるブックトークを聞くことにより、単元のゴールのイメージがもてるようにしたい。また、並行読書に用いる本も、市立図書館に依頼し、テーマごとに選書してもらうことにより、これまで読んでこなかった本との新たな出会いや子どもの読書に対する意欲の向上が期待できる。

ICTの活用＜4種類の思考ツールから自己選択＞

自分が選んだ本や「森へ」の魅力を考える場面では、4種類の思考ツールを活用する。1つめの「クラゲチャート」は、たくさんの理由を挙げることで魅力を実感することができる。2つめの「キャンディチャート」は、「もし～なら」という仮定から結果を予測することで魅力を考えることができる。3つめの「ピラミッドチャート（下から上）」は、集めた情報を抽象化していくことで魅力について考えていくことができる。4つめの「ベン図」は、複数の対象を比べて、共通点や相違点を明確にすることができる。自分が選択した思考ツールに整理していく中で、自分の考えが理由付けられたり、構造化できたりするため、作品の魅力に対する考えを深めることができると思われる。

ICTの活用＜スマイルノートによる一人一人の考えの可視化＞

一人一人の考え方を可視化できるよう、スマイルノートを活用する。スマイルノートを様々な場面で活用することで、考えを自由に交流し、同じような考え方に触れて自信を深めたり、同じ叙述を選んでいても、感じ方や解釈が異なることを実感したりすることを通して、自分の考えをさらに広げたり深めたりすることが期待される。

学ぶ子どもたち

＜国語科の学習の重要性を感じている子ども＞

6月に実施した意識調査では、国語科の学習を「とても大切、大切」、「社会に出た時に役立つ」と答えた子どもがどちらも100%だった。このことから、国語科の学習の重要性を実感していると思われる。一方で、それぞれの領域の学習に対しては、自信をもっている子どもが多いとは言えないという結果だった。しかし、「読むこと」の学習で叙述に即して自分の考えをもつことなどはある程度できており、毎日の読書の時間に取り組んでいる「私の言葉の宝箱」の活動に意欲的に取り組むことができている。

＜ICTを活用した学び合い＞

学び合いでは、自分の考えをスマイルノートを用いてまとめ、相互に交流したり、全体での学び合いに活用したりしてきた。これらの機能を用いて、子どもたちは友達の考えを見て自分の考えの参考にしたり、友達のよさを見つけて全体で共有したりすることで、学びを広げたり深めたりする交流を図ることが次第にできるようになってきた。

4 指導計画（7時間）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめている。 ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	①進んで読書の役割についての理解を深め、これまでの読書生活を振り返って、テーマに着目した本の交流をしようとしている。

 …課題
 …課題と対応したまとめ
 …活動
 …思考

時	子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価（方法）
1	<p>もうすぐ夏休みで本の貸し出しがあるけど、自分はこれまでどんな本を読んで来たのかな。</p> <p>読書アンケートでこれまでの自分の読書生活を振り返るとともに、これからの学習の見通しをもとう。</p> <p>読書アンケートに回答し、これまでの自分と本との関わりについて考える。</p> <p>低学年の頃は、よく絵本を読んでいたな。 同じ作者の作品やシリーズを読むことが多いな。 自由研究のために本を借りたこともあったな。</p> <p>自分の読書の傾向について考えたことを視点に沿って交流し合う。</p> <p>読む場所は、自分の部屋が一番多いかな。 ドキドキするような物語が一番好きかな。 あまり時間をかけて読むことは少なかったかも。</p> <p>図書館司書によるブックトークを聞き、学習のゴールをつかむ。</p> <p>本のよさを伝えるためには、いろいろと大事なポイントがありそうだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 読書に対する考えを広げたり、意欲を高めたりすることができるように読書アンケートを交流する場を設ける。 ICTの活用 読書についての一人一人の考え方を捉えたり、比較したりすることができるように、スマイルノートを活用する。 学習のゴールをつかむことができるように、男鹿市立図書館職員によるブックトークを聞く場を設定する。 一人一人が意欲的に学習に取り組むことができるように、「この夏、この本読んでみませんか？」というブックトークを聞き合う場を設定する。
2	<p>自分の好きな本でテーマや魅力を考えてみたいな。</p> <p>自分が選んだ本には、どんなテーマや魅力があるのだろうか。</p> <p>自分が選んだ本のテーマや魅力についてまとめ、交流する。</p> <p>私の本のテーマは「友情」だと思う。 このお話は、視点が2つあるというのが特徴だと思う。 この本は、謎が少しずつ解けていくところが魅力だね。</p> <p>本によって、いろいろなテーマや魅力があるんだね。</p> <p>今まで読んだことのないジャンルの本にも興味が出てきたぞ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> テーマを考える際には、あらすじや読んで考えたことを想起するとよいことを助言する。 ICTの活用 お互いのテーマや魅力を共有することができるように、スマイルノートを活用する。 ICTの活用 テーマや魅力を論理的に整理することができるように、スマイルノートの思考ツールを活用する。 <p>[思考・判断・表現] ① (シート分析, 観察)</p>

時	子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価（方法）
3	<p>教科書に載っている「森へ」という作品はどんなお話なんだろう。</p> <p>「森へ」を読み、初発の感想を交流し合おう。</p> <p>「森へ」を読み、①気に入った表現や言葉、②心に残った場面、③これまでの文章との違いという3つの観点に沿って感想をまとめる。</p> <p>たどえがとても多いような気がする。</p> <p>「森はさまざまな物語をきかせてくれるよう」の表現が好きだな。</p> <p>写真がたくさん使われているね。</p> <p>「森へ」というお話は、これまで読んできたものとはちがうところがあるね。どうしてなんだろう。</p> <p>「森へ」のテーマや魅力について考えてみたいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・着目した部分が焦点化するように、3つの観点に沿って感想を整理する場を設定する。 ・ICTの活用 お互いに着目した部分を共有することができるように、スマイルノートを活用する。 ・ICTの活用 自分の表現に生かすことができるように、筆者の叙述で気に入ったものを「私の言葉の宝箱」に残す場を設定する。 <p>[思考・判断・表現] ② (ノート分析, 観察)</p>
4 (本時)	<p>「森へ」は、今まで読んできた文章と少し違っていたね。</p> <p>「森へ」には、どのような魅力やテーマがあるのかな。</p> <p>「森へ」の魅力について、思考ツールを用いて整理する。</p> <p>魅力① 写真が多い</p> <p>動物や植物の写真がたくさん載っているね。</p> <p>実物だと言ったことがない人にも場面の様子が伝わるね。</p> <p>魅力② 比喻表現が多い</p> <p>「~のよう」や「巨木や樹林がこぼむ」など比喻や擬人法が多いね。</p> <p>読んでいる人のイメージが膨らむね。</p> <p>魅力③ これまでの文章との違い</p> <p>説明している部分もあるけど、物語のような気持ちの移り変わりもたくさんあるね。</p> <p>どちらもあることで、お話の世界に入り込むことができるね。</p> <p>「森へ」のテーマは、なんだろうね。</p> <p>「森へ」のテーマについて、自分の考えをまとめる。</p> <p>自然の偉大さ 自然のつながり 命の不思議</p> <p>「森へ」には、自然の偉大さなどを読み手が実感できるように、写真や比喻表現をたくさん使っているんだね。</p> <p>自分が選んだ本の魅力をしっかりと見付けて、友達に伝えたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習とのつながりを意識したり、本時の学習の方向性を確認したりする場を設ける。 ・ICTの活用 自分が着目した部分を確認することができるように、デジタル教科書の「マイ黒板」や「書き込みシート」の機能を活用する。 ・ICTの活用 興味・関心に応じて選択することができるように、キャンディチャートやクラゲチャート、ピラミッドチャート、ベン図の4種類の思考ツールをスマイルノート上に用意しておく。 <p>[思考・判断・表現] ① (ノート分析, 観察)</p>
	<p>自分が選択した本のテーマや魅力を考えながら読み進める。</p> <p>テーマと魅力はこれにしよう。 この言葉を宝箱に入れておこう。</p> <p>ブックトークの台本作りをがんばるぞ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 テーマや魅力、表現や言葉を家庭や読書タイムを活用して記録しておくことができるように、スマイルノートを活用する。

時	子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価（方法）
5 ・ 6	<p>今日は、ブックトークの台本作りだ。どうやったらいいのかな。</p> <p>「ブックトークの例」を参考に、魅力が伝わる台本を書こう。</p> <p>ブックトークの台本の構成を確認しながら、自分がこれまで書きためてきたメモを基に、台本を書き進める。</p> <p>「初め」の部分では、テーマを伝えよう。</p> <p>「中」で伝える魅力をどれにするか悩むなあ。</p> <p>「終わり」では、自分と本との関わりを書く必要があるんだね。</p> <p>台本が完成したら、ブックトークの発表練習を行う。</p> <p>自分がおすすめしたい本の魅力が伝わるブックトークの台本が完成したぞ。発表をがんばろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTの活用 お互いの活動の進み具合や困り感を共有したり、アドバイスし合ったりすることができるように、スマイルノートを活用する。 ・ 次時に向けて、児童の「ブックトークに期待すること」を把握しておく。 <p>[思考・判断・表現] ① (ノート分析, 観察)</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ① (ノート分析, 観察)</p>
7	<p>いよいよブックトークを交流し合う時間だ。おすすめの本の魅力が伝わるようにがんばろう。</p> <p>お互いのブックトークを聞き、感想を交流し合おう。</p> <p>ブックトークを行い、聞いて感じたことなどを交流し合う。</p> <p>テーマが作品にぴったりだね。</p> <p>たくさんの魅力が紹介されていたから、読んでみたくなった。</p> <p>本との関わりが自分と似ていて、とても共感することができた。</p> <p>単元の学習の振り返りを行う。</p> <p>今回の夏休みは、これまで読んだことのない本に挑戦してみたいな。</p> <p>好きな作者の作品をもっと読んで、さらに魅力やテーマについて考えてみたいな。</p> <p>人によって興味のある本は、様々あることを実感できて面白かったな。</p> <p>この後も、いろんな本に出会るのが楽しみだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前にアンケートをとった「ブックトークに期待すること」を踏まえて、グループを編成する。 ・ ICTの活用 お互いによさを認め合えるように、感想を付箋で交流できるスマイルノートの模造紙の機能を活用する。 ・ ICTの活用 読書に関するそれぞれの考え方を共有することができるように、スマイルノートを活用する。 <p>[知識・技能] ① (ノート分析, 観察)</p> <p>[思考・判断・表現] ② (ノート分析, 観察)</p>

5 本時の実際 (本時 4/7)

(1) ねらい

「森へ」がもつ魅力やテーマについて、思考ツールを用いて整理したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

(2) 展開

子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価方法等
<p>「森へ」という文章は、今まで読んできた文章と少し違っていたね。</p> <p>「森へ」には、どのような魅力やテーマがあるのかな。</p> <p>他の人は、どんなところを魅力だと思っているのかな。</p> <p>同じところに着目した人と交流して、自分の考えを確かめたいな。</p> <p>他の工夫を選んだ人と交流した方が解決できるかも知れない。</p> <p>「森へ」の魅力について、思考ツールを用いてまとめる。</p> <p>魅力① 写真が多く使われている 動物や植物の写真がたくさん載っているね。</p> <p>魅力② 比喩表現が多い 「~のよう」や「巨木や樹林がこぼむ」などの比喩や擬人法が多いね。</p> <p>魅力③ これまでの文章との違い 説明している部分もあるけど、物語のような気持ちの移り変わりもたくさん書かれているね。</p> <p>「森へ」の魅力について交流する。</p> <p>写真が多いと、行ったことがない人にも場面の様子が伝わるね。</p> <p>比喩や擬人法が多いと読んでいる人のイメージが膨らむね。</p> <p>どちらもあることで、読み進めるうちに、お話の世界に入り込むことができるね。</p> <p>「森へ」のテーマについて、自分の考えをまとめる。</p> <p>自然の偉大さ 自然のつながり 命の不思議</p> <p>魅力とテーマから考えてみると、筆者は、自然の偉大さなどを読み手が実感できるように、写真や比喩表現をたくさん使っていたことが分かるね。</p> <p>学習の振り返りを行う。</p> <p>自分なりに魅力やテーマについて、思考ツールを用いて、理由を考え、まとめることができた。</p> <p>〇〇さんの説明が具体的に、魅力をよく伝えていたと思った。</p> <p>自分が読んでいる本でも魅力がしっかりと伝わるよう、読み進めていきたい。</p> <p>次からは、ブックトークの準備！自分が選んだ本の魅力がどういうものなのか考えながら読んでいきたいな。</p>	<p>教師の支援と評価方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習とのつながりを意識したり、本時の学習の方向性を確認したりする場を設定する。 ICTの活用自分が着目した部分を確認することができるように、デジタル教科書の「マイ黒板」や「書き込みシート」の機能を活用する。 ICTの活用自分の興味・関心に応じて選択することができるように、思考ツールをスマイルノートに4種類用意しておく。 なかなか理由や効果などを書き出せない子どもに対しては、「キャンディチャート」を用いて、「もし、写真や比喩表現がなかったらどうなるか」について考えてみたり、友達の出組を参考にしたりするように助言する。 共通点や相違点に気付くことができるように、友達と考えを交流する場を設定する。 ICTの活用全体での学び合いの場面では、それぞれの伝え方の工夫の効果をまとめた思考ツールを視覚的に捉えることができるように、電子黒板に映し出す。 魅力やテーマについて焦点化できるように、子どもの発言を整理していく。 <p>[思考・判断・表現] ① シート分析・観察 「森へ」がもつ魅力やテーマについて、思考ツールを用いて整理したことに基づいて自分なりの考えをもっているかの確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用自分の学習への取組を価値付けることができるように、観点を示す。お互いの振り返りを共有できるように、スマイルノートを活用する。